

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策 【小学校・義務教育学校前期課程】

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
- (2) 児童質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査）
- (3) 学校質問調査（学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査）

4 調査日

令和6年4月18日（木）

II 学力調査の結果

1 教科に関する調査結果（平均正答率）

	国語	算数
全国	67.7	63.4
広島県	69	64
府中市	68	61

2 調査の結果にみられる特徴（全国正答率を上回った特徴的な項目）

【国語】

【思考・判断・表現】読むこと

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる（市 77.0％ 全国 72.6％）

【算数】

【思考・判断・表現】図形

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる（市 75.4％ 全国 72.0％）

3 調査の結果にみられる課題及びその課題に対する改善策

【国語】

課題	課題に対する改善策
【思考・判断・表現】話すこと・聞くこと 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる（市 47.5% 全国 52.9%）	・話したり聞いたりする際に、考えたり表現したりしたことを客観的に見つめ直すことができる活動を取り入れる。
【知識・技能】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる（市 37.3% 全国 43.4%）	・「書く」以外の多様な学習方法を児童に提示し、一人一人に合った学習方法を選択できるようにする。 ・同音異義語については、漢字のもつ意味を確認しながら学ばせる。

【算数】

課題	課題に対する改善策
【知識・技能】数と計算 問題場面の数量関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる（市 54.5% 全国 62.1%）	・問題場面を把握させるために、図や数直線に表す活動を継続する。 ・答えの見通しをもった上で立式することを習慣化する。
【思考・判断・表現】数と計算、データの活用 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる（市 41.0% 全国 49.3%）	・日常生活の事象について、目的に応じて必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データを考察する活動を取り入れる。 ・収集したデータの中から必要な情報を選択し、数量関係を式に表したり、式を読み取ったりする活動を意図的に取り入れる。

4 児童質問調査の結果にみられる特徴（全国平均値を上回った特徴的な項目）

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか （市 93.4% 全国 91.7%）

5 児童質問調査の結果にみられる課題及びその課題に対する改善のポイント

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目	改善のポイント
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか （市 57.3% 全国 67.6%）	・探究的な学びのサイクルを意識した単元を構成する。 ・ことば探究科で学習するパラグラフの基本構造を他教科でも活用させる。 ・デジタル機器の活用も含め、自分の考え等の伝え方を選択できるようにする。